

コンピュータとはできるだけ仲よくしているが、裏切られることがきわめて多い。やはり理論的によく考えることの必要性を痛感する。現在の経済学部での研究は刈り込み系列による景気動向指数の作成である。現用のものと比較すると先行・一致・遅行系列の各時系列的特徴をはっきり示すことができる。

シェル石油(株)広島支店 浜崎 宏

ORにたずさわってすでに18年になり、民間企業でORマンとしての自覚をもち続けるむずかしさを痛感しています。今まで手がけたテーマは需要予測、計量経済、消費行動分析、地域分析、製品企画、物流システム、チャンネル再編成、価格効果、公害、工場立地、等です。業界環境変化、組織変遷の中でニーズも変わり、使用するコンピュータも、中型、超大型、TSS、マイコンと大きく変化してゆき、自家製プログラムもライブラリー化していきました。

現在興味を感じているのは、企業利益拡大のための販売力の追求(どうしたら売れるか)ということと、特約店網を中心とした財務内容充実のための経営分析です。これらはORというよりもシステム分析、人間行動分析が中心ですが、なんらかの最適解、共通解が求められればと考えています。

**編集後記**▶新年の忙しさも一段落し、定常状態にもどったことと思います。「1月居座る、2月は逃げる……。」という言葉が肌で感ぜられます。▶この言葉に示されるように人間の感覚は物理的な尺度とは異なるようです。感覚が基となり形成された不可思議な世界観が人間行動を支配しており、人間行動の研究は昔からの社会科学の中心的課題となってきました。ORも解の実施を含めて考えると人間の問題は不可避となります。そこで、今月の特集は「人間の行動モデル」.人間行動をシステム理論の

最後に地についた「日本的マーケティングOR」のますますの発展と、応用科学たるORが自覚をとりもどし、同学の士がふえることを期待しています。

西日本鉄道(株) 電子計算部営業課 福田晋一郎

ORの教育を受けてから15~6年たった。企業の問題を1つでもORで解決できれば上出来だと先生に教わった。当時はその意味がよく理解できなかったが、今になってなるほどと思う。企業の中に問題らしきものはたくさんある。しかし、それらの制約、条件等を整理して、1つの問題にまとめることすら大変だ。途中で投げ出しちゃうのが関の山である。

しかし、ORの知識、考え方がまったく無駄であったとは思わない。日常の仕事でずいぶん無理、無茶な問題に出会うことが多い。その時に、何か解決法があるはずだ……と、その問題の解の存在を信じ、とにかくいろいろやってみる。結果は最適解にほど遠いかも知れないが自分なりに何か結論をだすという考え方が私にとって非常に役に立っている。

現在のところ、コンピュータ部門で情報処理サービスの仕事にたずさわっているが、競争の激しい業界で、いかにして市場占有率をあげ増収をはかるかが当面の課題である。

立場から捉えた松田正一先生の理論にもつづいた応用例の紹介です。本号に掲載した事例以外にも多くの現実問題への応用例があるとのことですが、頁数の都合で割愛せざるを得ませんでしたこととお詫びします。▶モニター委員をはじめとして本誌に対するご意見をいただくのですが、編集委員の立場からすると、意外と会員各位からのご意見が少ないことが気になります。レーダー無しで暗礁海域を航海しているような不安感があります。遠慮のないご意見、ご希望をお寄せください。(M)

## オペレーションズ・リサーチ

昭和57年2月号 第27巻(新シリーズ第7巻) 2号 通巻254号

代表者 松田武彦

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
(電話 03-815-3351~2) 〒113

編集人 小林竜一

発売所 株式会社 日科技連出版社  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円(郵送料含)年間予約購読料 9600円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社(571-2548)、日経弘報社(563-2241)へ